法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-12-21

中野収・中西洋教授の退職記念号に寄せて

公文, 溥 / クモン, ヒロシ / KUMON, Hiroshi

(出版者 / Publisher)
法政大学社会学部学会
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
社会志林 / Hosei journal of sociology and social sciences
(巻 / Volume)
50
(号 / Number)
4
(開始ページ / Start Page)
1
(終了ページ / End Page)
3
(発行年 / Year)
2004-03
(URL)
https://doi.org/10.15002/00015292

中野収・中西洋教授の退職記念号に寄せて

社会学部長　公　文　　溥

お二人の先生が，今年度をもって本学を定年退職されます。ともに1933年（昭和8年）にお生まれになり，今年70歳になられました。日本社会が激しく変動した高度経済成長期に研究者としての道を歩まれたお二人は，普遍的なあるいは支配的な価値・理論を相対化しつつ，日本の実情を見据える研究を行って来られました。その結果，中野先生はメディア論の領域において，中西先生は社会政策論の領域において，それぞれ専門家にとって基準となる視点と実証研究を提起したと評価されております。

中野先生は，東京大学文学部社会学科卒業（1957年）後，同大学大学院社会学研究科に進まれました。そして，本学社会学部研究助手に就任され（1960年），その後，社会学部において専任講師，助教授，教授と昇格されました。社会学部では「情報の理論」などを講義されました。中野先生は膨大な著作を発表しておられます。それらは，コミュニケーションの理論，メディア社会論，若者文化論，さらには戦後の世相等，極めて多岐にわたっておりますが，第一にあげなければならないのは，コミュニケーションあるいは情報の理論の分野における業績です。メディアが情報やコミュニケーションを規定するという理論モデルを提起されたことです。『現代人の情報行動』日本放送出版協会，でその理論を展開されました。それは送り手中心のコミュニケーション論の転換を提起するものでしたが，現代の受け手に関して画期的な視点をうちだされました。共著『コピー体験の文化』時事通信社，において明らかにした「カプセル型人間」がそれです。この概念は，その後中野先生の著作でキー概念として使用されます。たとえば，『まるで異星人』有斐閣では，ポストモダンの人間類型として意義づけられます。

第二は，情報メディア論をベースとした社会現象の分析と理論の啓蒙化があげられます。『ビートルズ現象』紀伊国屋書店，『メディアの快楽』勁草書房，『若者文化の記号論』PHP出版，『メディア人間』勁草書房，『都市の「私物語」メディア社会を解剖する』有信堂，などがそれにあたりますが，それらは私のような素人に

もわかりやすくかつ大変興味深く読ませていただきました。また『戦後の世相を読む』岩波書店，では第二次大戦後の世相の奥をこれまた日常的な語り口で分析しておられます。この分野の業績からは，いわゆる「ニュー・アカデミズム」の先駆者としての中野先生の姿が浮かび上がります。

さらに，中野先生は社会学部の教育でも多大の貢献をされました。専任講師としてゼミを担当して以来，中野ゼミを多くの学生が希望し，有能な人材を育成しました。中野ゼミはまた社会学部を受験生に紹介する，法政大学の公式冊子『社会学部への招待』を作成してまいりました。本冊子を通して，わが学部に関心を持った受験生が多いと聞きます。

中西先生は，東京大学経済学部卒業（1957年）後，同大学院社会科学研究科応用経済学専攻課程に進学されました。そして東京大学経済学部助手に就任され（1963年），その後同学部において助教授，教授と昇格されました。定年により東京大学を退職されたあと，新潟大学経済学教授（1994年）に就任され，その後，本学社会学部教授に就任されました（1996年）。この間，経済学博士の学位（東京大学）を取得されました。本学では，「社会政策科学総論」などの講義を担当されました。

中西先生の研究業績も極めて多岐にわたりますが，第一にあげなければならないのは，大作，『日本近代化の基礎過程—長崎造船所とその労資関係』（上），（中），（下），東大出版会，です。日本の近代化の過程における労資関係の特質を，造船所を対象にして詳細に分析したものです。ついで，社会政策の主体が国家にある点を明確にした，『日本における「社会政策」・「労働問題」研究—資本主義国家と労使関係—』東大出版会があります。さらに，『〈自由・平等〉と《友愛》』ミネルヴァ書房において，労働者の友愛に労働組合成立の根拠を求める視点を提起しました。

中西先生は，1980年代末から10年間，研究の視野を拡大した二つの実証的な研究に没入されます。一つは“〈給料袋〉の国際比較—イギリス，フランス，ドイツ，イタリア，中国，韓国，日本—”，もうひとつは，“東アジアの〈人と社会〉—中国，タイ，インドネシア，フィリピン，韓国・北朝鮮，日本—”です。前者は，自動車工場に働く人の賃金を国際比較の観点から実証的に分析し，後者は人と社会を対象に東アジアの比較分析を行ったものです。近年出版された『《賃金》《職業＝労働組合》《国家》の理論』ミネルヴァ書房は前者の，そして『近未来を設計する—〈正義〉〈友愛〉そして〈善・美〉』東大出版会，は後者の理論編に相当するものですが，実証的な研究の成果の出版が望まれます。

こうしてお二人の先生は，真摯な研究活動を通して，私どもに研究者のあり方を身をもってお示しになられたと言えます。両先生が退職されますことは，社会学部教授会のメンバーとして寂しい限りであります。どうか今後ともお元気で，ご活躍されることをお祈りいたします。